

運動会で学んだこと

五年 海野 輝陽

ぼくは運動会で学んだことがあります。

一つ目は協力することです。

ぼくがきつい時は、団長がはげましてくれました。それに、団長がつらい時は団員が団長をはげましていました。それぞれがはげまし合ったからこそ運動会がおもしろくなってくると思いました。でも運動会には勝ち負けがあります。ぼくの団はダブル優勝にはとどかなかったけれどみんなで力を合わせて団結賞を勝ち取ったのでうれしかったです。

二つ目に学んだことは、ねばり強さです。ぼくたち白団は、競技で全部負けてしまいました。それでも、団長と副団長の二人の心は折れていなかったのだからぼくたちは団結賞を取ることができました。ぼくも団長達を見習って来年はもっといい運動会にして、大切な六年間の思い出にしたいなと思っています。

来年は、ダブル優勝を取りたいです。

運動会をのりこえて

六年 青木 龍之介

ぼくは運動会でがんばったことと分かったことがあります。

がんばったことは、団看板作り、ぼんぼん作りや応えんです。去年の団長は簡単そうにしていたけれどいざ自分がやってみるとたくさんのやらなければならないことがあり、最初は「つらい」や「やめたい」などと思っていました。白団の歯車が回っていませんでした。その後、いざみんなで取りかかってみると、「歯車が動き出した！」とみるみる自信がわいてきて、「つらい」などのにげたい気持ちがなくなっていました。

しかし、運動会までの残り日数が減っていくうちにぼくもあせり出しました。「応えんは練習しているけれど、まだまだ足りない！」

と思い、それからの1週間はずっと応えんの練習を入れてみました。みんなは団技がしたいと言っていたけれど、ぼくは「団技は勝てる可能性があるし、応援をもっとよりよくしよう」と説得したら、みんながやる気を出して声をあげてくれました。

二つ目の分かったことは、大切なのは結果では無く努力の証があればよいということです。ぼくは、最初みんなの期待をうらぎらないようにしないといけないと思い結果ばかりを気にしていました。しかし、ぼくが結果に追われていると、先生が

「結果が全てではない。努力の証があればいい。」

と話してくれました。そこでぼくは、努力することが大事で結果や人の目は気にせず、前向きにやっていくことが大事だということに気がきました。

ぼくは運動会を通して、何事にも努力が大切であることに気付きました。残り数ヶ月、くいの残らない小学校生活にしたいです。